

食と農

ものづくり

エネルギー

くらし

企業

ちゅうごく経済

①

島根原発 事故シミュレーション

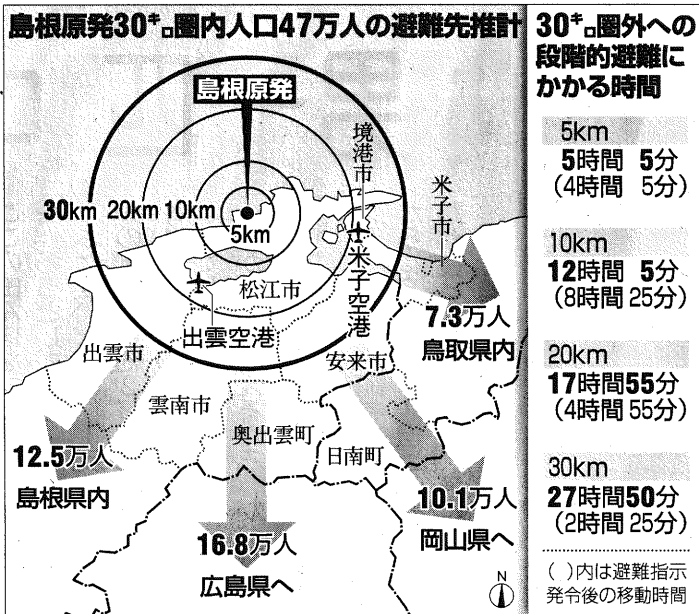
47万人避難の行方

中国電力島根原発（松江市）で事故が起きたら、原発30キロ圏内から圏外に避難するのにどれくらいかかるか。島根、鳥取両県が5月に初めて発表したシミュレーションでは、住民約47万人の9割が自家用車やバスで避難を終えるまで27時間50分。放射線の被害が予想される鳥取県、避難者を受け入れる広島、岡山両県にも影響がある。

「段階的」完了に27時間50分

試算は、自家用車約19万台、バス450台を使い、広域避難計画で決められた避難先の方向へ避難すると仮定。時期や時間帯などの条件を変え、23パターンのシミュレーションをした。原発からの距離別に、指示があるまで屋内退避してから避難する「段階的避難」のパターンでは、最も避難しやすい夏の平日昼間でも、住民の9割が30キロ圏外へ避難し終える避難完了

時間は27時間50分となった。道路条件の悪い冬の平日昼間は32時間45分、最も観光客が多い初詣の時は32時間20分だった。5キロ圏に避難指示が出るのと同時に、5〜30キロ圏でも同時に避難を始める「一斉避難」をすれば、完了時間は21時間45分と短い。ただ、移動時間が平均16時間となり、段階的避難より約10時間も長くなるため、被曝リスクが高くなる。



最も早く避難すべき5キロ圏内の住民の5キロ圏外への退避時間が2時間30分から10時間に、30キロ圏外への避

専門家「実態そぐわぬ」

試算が「実際の避難時間は、面極端な段階的避難と一斉避難の間となり、30キロ圏内からの避難は1日で可能」と結論づけた点について、「原発避難計画の検証」の著書がある環境経済研究所（東京）の上岡直見代表は「橋が壊れるなど実講演で「橋が壊れるなど実



昨年11月にあった島根、鳥取両県と関係6市の防災訓練。松江市島根町の住民はバスに乗り込み、奥出雲町の避難所に移動した。島根県奥出雲町三成

避難完了は5時間5分から21時間45分に延びる。このため、島根県は「段階的避難が望ましい」としている。

ただ、段階的避難は原発に近い住民が避難する間、それ以外の住民は避難を待つことになる。松江市の松浦正敬市長は5月の定例会見で「人間、早く助かりたいという気持ちはある」と難しさを認めながら、「一斉に避難すると、中心部の人たちが犠牲になる可能性がある」と市民に理解を求める考えを示した。

避難に丸1日以上かかる」と予測した試算は、改めて島根原発事故の影響の大きさを示したが、それでも甘いという指摘がある。

実際は延びる要因が多い」と疑問を投げかけた。

平日昼間に家族を呼び集める時間や、避難準備にかかる時間の想定もなく、1台あたり25人としたバスの定員も、介助する人を考えると現実的ではないと指摘する。

23パターンで仮定した条件の中には、着工中の道路が開通したり、住民の2割が他の車に同乗したりという想定も含まれる。「避難時間を短縮する方向の楽観的なシナリオが多く、実態にそぐわない」という。

身体に付着した放射線量を調べるスクリーニングについても考慮されていない。「準備は避難指示までに整い、スクリーニングは30キロ圏外での実施を想定しているため」（島根県担当）者」という。（宮野拓也）

② 時間の短縮は歓迎

鳥取

隣接する鳥取県の広域住民避難計画（鳥根原発事故対応）では、原発30キロ圏内の境港市と米子市の一部の住民計約7万3千人が避難対象だ。この区域を4分割し、鳥根原発に近いところから5時間間隔で順次、県中東部に避難する。計画策定の際、避難時間は4日間を想定していた。

今回の試算について、水中進一・県原子力安全対策課長は避難時間が短くなるとする予測を評価。「この推計に基づき、しっかりとした避難訓練ができれば住民も安心できる。今後は屋

内の方が被曝リスクが少ないことを知ってもらい、段階的な避難の有効性を住民に理解してもらうことが必要」と課題を挙げた。

境港市の黒崎享・自治防災課長も「これまでは避難に時間がかかりすぎだ、という住民の不満があった」と避難時間を短縮した今回の試算を歓迎。「今後は一人暮らしの高齢者や障害者の避難を、住民と協力して丁寧に考えていくことが大事」と語った。

境港、米子両市は今月下旬～8月、避難対象区域で避難計画についての住民説明会を開く予定だ。

（吉田海将）

受け入れ側戸惑いも

広島・岡山

広島、岡山両県は5月、原発事故時に避難者を受け入れる協定を鳥根県と結んだ。広島県は22市町が約16万8千人を、岡山県は全27市町村が約10万1千人を受け入れる。

協定は、鳥根県が避難前にスクリーニングや除染をすることや受け入れ費用を負担することを定めたが、まだ第一歩にすぎない。約4万5600人を受け入れる広島市の久保富嗣防災課長も「最終的には鳥根で詳細が決まらな」と話す。

鳥根県出雲市の避難計画は、広島県内12市町の公民館や小学校など227カ所を避難所の開設予定

施設として記しているが、施設がある自治体の防災担当者は「計画に載っていることを知らなかった」。施設は地域の避難所にもなっているため対応はできるといだが、「受け入れに関して特に指示はない」という。

受け入れ規模をめぐる戸惑いもある。岡山県新見市は人口の約2割にあたる約5800人の受け入れを求められた。市の担当者は「厳しいのは事実。速やかに体制づくりを目指す」という。一方、2万5千人を受け入れる岡山市の藤原亮・危機管理室課長補佐は「割り当てが少なく、正直、驚いた」と明かした。

（長谷川健、木村和規）